

小梅との出会いは、まったく予想外の事から始まりましたが、小梅との日々は私にとって本当に幸せな毎日でした。これは、主人にもあまり話していないのですが、結婚して、福岡から四国の松山へ引っ越した私にとって、主人以外たよれる人はいなかったの、

主人と喧嘩をした時や、夜、遅くまで一人で主人の帰りを待っている時など、わたしが孤独を感じるような時に、小梅はいつも、

「大丈夫？わたしがここに居るよ。」

と言わんばかりに何処からともなく出てきてはそばで寝てくれました。

これは親ばか以外のなにものでもなのですが、小梅は本当に賢い子でした。

なんとな～く、その場の雰囲気を読み取っているかのごとく自分にとって関係ないなあ…。というような時、子供などが居て、自分が出て行くとおもちゃにされそうな時などは、自分の隠れ家の奥に潜んでまったく出てきませんでした。

でも、「こうめ～」と呼ばば、必ず出てきました。

小梅はちょっと気の強い子でした。

朝、眠くて眠くてたまらなくて、小梅のごはんの準備がちょっと遅くなると、何故かご飯をつくるわたしではなく、主人(それも、わたしの真横で寝ているのに)の

足を本当に皮がむけて骨がでてくるのでは！！と思うほど必死に引搔いて起こしました。

今、振り返ると、本当に小梅は賢かったんだなあ。と思います。

と言うのも、私は寝つきがよく、しかも、常に爆睡状態だったので、直接わたしを起こそうとしても、時間がかかり、しかもちょっとでも引搔いたり、噛んだりしようものなら

鼻ピン！！で叱られる事を小梅はよ～く承知してたんです。

だから、私に比べて眠りの浅い主人を引搔けば、必ずすぐに起きる事、しかも、しっかり引搔けばそのうちに、やめさせようとして、主人が必ずわたしを起こして

ご飯を作らせることを見抜いてたんです！！ (@O@)これに気づいた時はわたしもびっくり！！でしたが、

やっぱり、賢い！！って言うか、ちょっと悪知恵が効く子だったのかも…。(焦)

でも、わたしは、そんな小梅のちょっと強い意志をかんじさせる瞳が大好きでした。

私達の知らないところで、甘えん坊の小太郎の世話もちゃんとみてくれた、ちょっとおませな姉御肌の小梅。

小梅を飼うようになってから、フェレットがいると聞けば、いろんな子を見に行きました。

でも、やっぱり小梅が一番！！美人で、かわいくて。ほんとうに宝物でした。

小梅が癌だと言われ、緊急手術をした後で「後1週間もつかどうか保障はできない。」と言われた時、何を言ってる

のか、全く理解できなかった。

保育器の中で、眠ってる小梅を見て、

（小梅は必ず戻ってくる。わたしの腕の中から始まったんだから、私のもとに小梅は必ず戻ってくる。

・・・小梅はずっとわたしと一緒に居るはずなんだから、小梅が居なくなるわけがないよね。・・・ねえ、小梅、帰って来るよね。）

と小梅に問い続けていました。

そんな私のことを心配したのか、残していく小太郎に、最期に何かを伝えなかったのか、病院の先生からは「保育器から出して、退院させたら5日もつかどうか分からない。」

とまで言われていたのに、小梅はそれから2ヶ月後、退院して帰って来てくれました。

本当に、本当に、嬉しかった！！

小梅と一緒に居るために仕事を休むくらい嬉しかった。

それから約1ヶ月、「5日はもたない。」と言われていたのに、小梅は私達と一緒に居てくれました。

腹水がたまって、自分の思うようにも動けず、それでも、きれい好きの小梅はトイレに行こうとがんばって、でも、間に合わず、いろんな所を汚してしまって

本当はとっても辛くて、もっと早く楽になりたかったのかもしれないけれど、それでも、小梅はがんばってくれました。

本当にシロップ水で薄めたごはんを頑張って食べてくれました。

本当によく頑張ってくれたと思います。

いま思えば、最期の日、腹水がたまり過ぎて、小梅が「ひゅ〜。」ってない日、

他に選択肢がなくて、腹水を抜いてもらいに病院に行ったけれど、あの時、「無事、腹水は抜けました。」って連絡をもらった時、

どうして小梅の様子を見にいかなかったんだろう。

たしかに、「今は寝ているので明日見に来て下さい。」といわれて、「はい。」って言ったけど、

どうして、小梅の麻酔がひいて目が覚めた時、傍に居てやらなかったんだろう。

後悔しても、

後悔しても、

後悔しても、いまさらどうしようもないけれど、この事ばかりは、今でも私は自分が許せない。

あんなにも、「必ず傍にいるからね。ず〜っと一緒だからね。」って言い続けていたのに・・・。

さいごの最期に、独りで逝かせてしまった。

ごめんね。ごめんね。小梅、寂しかったよね。本当にごめんね。

だから、せめて今は、たちの里で、ママは居ないけど、フェレットのお友達と楽しく過ごせたらいいな。

もう、苦しむこともなく、小梅のしたいように幸せになってくれればいいな。と思いお願いすることにしました。

と、つらつらと長くとりとめもない文章になってしまいましたが、小梅の写真を送ります。
よろしくお願ひします。

小梅と小太郎のママ

